

本時の位置	5 / 18	評価規準	数学的な考え方
本時のねらい	「一つ分」×「いくつ分」=「全部の数」の乗法の立式を確実にできるようになるとともに、乗法の答えは加法(同数累加)によって求められることを理解する。	・乗法の式の意味をもとに、その答えは既習の加法を用いて求めることができる と考える。	

段階	主な学習活動	学習集団	個のつまずきに応じた指導・援助
素材提示	<p>復習をする(5×3)</p> <p>1. 素材提示をする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ドーナツが 3こずつ 入った パックが 4つあります。 ドーナツは ぜんぶで なんこでしょう。 </div>	全体	
課題化	<p>2. 素材を式に表す</p> <p>・一つ分...3(こ), いくつ分...4(つ) 求めたい数...全部の数 かけ算で立式する。 ・式は、「3×4」です。 ・どうすれば答えを求められるだろう。</p> <p>3. 課題をつくる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 3×4の答えの出し方を考えよう。 </div>	全体	C1: 一つ分やいくつ分などの言葉の意味が分からず、立式できない。 復習の5×3で、一つ分などの言葉の意味を確認する。
課題追求	<p>4. 答えの出し方を考える。</p> <p>(1) 図で考える。 ・3個の を4列並べる。 ・一つ分の大きさ(3)が4つ集まると12個になる。 答え: 12個</p> <p>(2) 3とびで数える。 ・3 6 9 12となる。 答え: 12個</p> <p>(3) たし算を使って求める。 ・3+3+3+3=12 答え: 12個</p>	個人	C1: 式から答えを出すことができない。 図を使うことを指示する。 C2: 答えは出した(一つ一つ 図の を数えて)が、どうしてその答えになるのか分からない。 ・一つ分の数ごとのまとまりを意識させる。 ・3 6 9...と、3とびで数えられることをつかませる。 C3: 「三十四」と、九九を唱え、答えは出したが、どうしてそうなるのかを考えようとしなさい。 図などで考え方を説明できるかどうかを見届け、できなければ、説明を考えるよう指示を出す。
解決	<p>5. 全体で考えを確かめる</p> <p>図の考え方と3とびの考え方は、どちらもたし算の考え方と同じだということが分かる。</p> <p>6. まとめをする</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 3×4の答えは、 3+3+3+3の計算でもとめることができる。 </div>	全体	C4: 図と3とびの考え方が、たし算に結び付けられない 教師と確認しながら、一つ分、いくつ分などの同じ部分を意識させる。 ・まとめの後、同数累加の方法を全員で改めて確認する。
一般化	<p>7. 「同数累加を用いて乗法の答えを求める」評価問題を行う(P13 えんぴつ問題4)</p> <p>必ずかけ算で (1) の5つ分 立式した後に (2) の2つ分 答えを出すよ (3) の3つ分 うにさせる。 (4) の6つ分</p>	個人	・評価問題については解くことができた児童から順に全員の丸付けを教師が行い、同数累加がきちんとできているか確認する。 C5: かけ算の式を立式することができない。 挿絵を示しながら、一つ分の数といくつ分の数を意識させる。 C6: 九九のみで計算しようとする。 たし算の式も書かせ、同数累加で答えを求めさせる。
評価	<p>8. 自己評価をおこなう</p> <p>・本時の振り返りをする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価 今日の学習で自分の考えを持つことが出来たか。(、) 図を数える方法と他の方法の同じ所を見つけ、かけ算の良さが分かった。(、) 評価問題が何問できたか。(3問以上、2~1問、0問) </div>	個人	